

医学研究センター

医学研究センター

片桐 岳信
(センター長)

医学研究センターは、埼玉医科大学医学研究センター規程に謳われているように、『本学の医学研究を円滑かつ効果的に行い、教育研究上の目的を達成するための基盤整備を図るとともに、当該研究活動に必要な企画立案、管理運営その他の研究支援を統括・推進し、もって本学の研究活動の質的向上及び研究成果の社会への還元に資すること』を目的として活動している。以下の6部門で構成され、それぞれの側面から本学全体の研究を支援している。

- 1) 研究主任部門：基本学科と医学研究センターの情報共有に関わる。
- 2) 共同利用施設運営部門：各種共同利用施設の運営に関わる。
- 3) 研究支援管理部門：外部資金獲得の支援や学内グラントに関わる。
- 4) 安全管理部門：RI、DNA、薬物、環境、動物、感染など、研究活動における安全管理に関わる。
- 5) フェロワーシップ部門：大学院生以上助手未満への経済的支援に関わる。
- 6) 研究評価部門：研究活動の内部評価や外部評価に関わる。

医学研究センターの構成員は、実際に研究に携わっている全キャンパス両学部の教員から選出されている。センター長と各部門長・副部門長、各キャンパスのランチ長は、毎月、定例の運営会議を開催し、センター全体の情報を共有しながら研究活動を支援するために活動している。

研究主任部門は、学内グラント受賞者による研究発表会を主催している。令和2年度には、第1回となる「オール埼玉医大研究の日」が開催された。これは、学部生や大学院生を含めて、本学とでの研究者が一同に会して研究についてディスカッションする初の試みである。COVID-19の影響で当初の計画を縮小しての開催であったが、全学的な研究気運が高まった。

共同利用施設運営部門は、本学が有する中央研究施設（毛呂山キャンパス、日高キャンパス）、研究部（川越キャンパス）における研究分野ごとの研究設備の整備、研究環境の改善、利用者の利便性、研究支援の向上、等について検討し、それぞれの施設の整備、運営に反映させている。また、「共同利用実験室」と呼ばれる共用実験スペースを管理・運営し、本学で研究室を持たない者や、研究室の構築段階にある者の研究活動を支援している。委員は、動物実験系、放射線（RI）系、形態系、機能系の部門長、施設長、研究者により構成される。

研究支援管理部門は、論文投稿の際に提出が義務付けられている論文投稿報告書の管理、学内グラントの募集、審査会の開催、および管理、学外の競争的研究資金の獲得の支援、などを行なっている。学内グラントは、本学において長年行われたストーリー性のある研究を対象とした「丸木記念特別賞」、前年度の文科省科研費が不採択となった課題を対象とする「一般枠」からなる。さらに、2020年度から、RAセンターとの協力の下に、「新科研費アドバイザー制度」を開始した。春に不採択となった課題の研究計画調書を用いることで申請者の負担を減らし、さらにアドバイザーにも十分な時間をかけてアドバイスを頂けるように工夫している。

安全管理部門では、本学における研究・教育・診療活動に必要な安全管理を行うことを業務とし、以下の6つの分野により構成される。1) DNA分野：組換えDNA実験を組換えDNA実験安全委員会と協力して行う、2) 感染分野：BSL2以上の病原性微生物や、それらが産生する毒物等の管理を病原性微生物等管理委員会と協力して行う、3) 薬物分野：麻薬や向精神薬、農薬の管理を行う、4) 廃液等環境分野：系廃液及び廃棄試薬の管理を環境安全委員会と協力して行う、5) 動物分野：実験動物の管理を動物実験安全委員会と協力して行う、6) RI分野研究用の放射性同位元素をRI実験安全委員会と協力して管理する。

フェロワーシップ部門は、「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の募集と選考を行なっている。本奨学金応募者の利便性を高めるため、英語版募集要項の作成や、募集要項の早期の掲示などの改善に取り組んでいる。令和元年度からは、留学生が大学院在学中は継続して奨学金を受給できるよう改善した。

研究評価部門は、本学研究者の研究業績を登録・集計・公開することにより、本学の医学研究の発展に資することを目的に、平成18年から研究業績データベースシステムを導入・運用している。以来、本学のすべての常勤研究者を対象に研究業績を登録し、国立研究開発法人科学技術振興機構が運用する「新世代研究基盤リサーチマップ（researchmap）」とデータ交

換を行い、研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用、大学病院の特定機能病院認定、国際医療センターのJCI受審等のための研究業績の集計・出力に活用している。平成26年度人事考課からは、研究業績の確認にも用いられるようになり、平成27年度人事考課からは提出書類に「研究ポイント」を記載し、研究活動の実績を数値化している。本研究業績データベースには、医学部と保健医療学部をあわせて1,444名の研究者が登録されている（令和3年6月）。

本学では、学内グラントの他に、学長裁量経費の「研究マインド支援グラント」として3種類の研究助成が行われている。1つ目は課外学習プログラムの実施に対する助成、2つ目は両学部における共通部門を対象とした助成、3つ目は科研費や学内グラントを持たない医学部基礎医学系の若手研究者を対象とした助成である。それぞれの研究助成に関する募集要項や過去の助成実績などは、随時、医学研究センターのHPにおいて公表されている。本学には、この他にも保健医療学部のグラントや、病院長裁量経費による若手支援グラントなどがある。

医学研究センター

研究主任部門

海老原 康博
(部門長)

1. 構成員

部門長 海老原康博 (EBIHARA Yasuhiro) : 国際医療センター中央検査部: 教授: 任期: R3年4月1日~R5年3月31日
副部門長 田丸 淳一 (TAMARU Junichi) : 総合医療センター病理部: 教授: R3年4月1日~R5年3月31日
下岡 聡行 (SHIMOOKA Toshiyuki): 保健医療学部医用生体工学科: 教授: R3年4月1日~R5年3月31日
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 大学病院口腔外科: 教授: R3年4月1日~R5年3月31日
部門員 町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター: 助教: 任期なし

2. 目的

本部門は研究活動にとって有意義な情報が研究主任を通して基本学科の研究員の隅々まで伝達できるよう、体制整備を行う。研究主任に対して、基本学科の研究の責任者であると同時に研究費を適正に管理・運用する責任者であることも自覚していただき、適正な運用を推進するよう指導する。研究者向けの情報を発信し、研究主任から各所属部署内での周知徹底を依頼する。学内での共同研究が推進できるよう体制整備に努め、支援活動を行う。本年は学内グラント成果発表会を2回/年開催し、学内の研究推進を図る。令和2年度からは新型コロナウイルス感染拡大の対応により、ライブ配信を取り入れた。

3. 学内グラント受賞者成果発表会の企画・開催

1) 第20回学内グラント受賞者成果発表会

日時: 令和2年7月31日(金曜日) 17:00~18:50

場所: 毛呂山キャンパス本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3(テレビシステム中継)

日高キャンパス・教育研究棟2階会議室1(テレビシステム中継)

学内LANによるライブ配信

埼玉医科大学医学部 講義収録・配信システムを利用した録画視聴

発表者(敬称略; 所属)・演題

17:05~ 小林 信春(医学部 微生物学)

「細菌を用いたがん微小環境標的治療の分子基盤研究」

17:25~ 島田 朗(医学部 埼玉医科大学病院 内分泌内科・糖尿病内科)

「1型糖尿病への免疫学的介入—BCGによる自己免疫応答, インスリン分泌への影響—」

17:45~ 徳元 康人(アドミッションセンター)

「アダルト型オリゴデントロサイト前駆細胞に特異的に発現するマーカー分子の探索」

18:05~ 中村 泰大(医学部 国際医療センター 皮膚科)

「新規バイオマーカーによるメラノーマへの免疫チェックポイント阻害薬奏効免疫型の解明」

18:25~ 小田垣 雄二(医学部 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科)

「精神疾患の病態解明を目指した死後脳研究」

総合司会: 国際医療センター 海老原康博

座長: 大学病院 前田卓哉, 総合医療センター 倉持泉, 医学部 川野雅章, 佐々木惇,

国際医療センター 川崎朋範

開会の辞: 別所正美 学長 閉会の辞: 片桐岳信 医学研究センター長

総参加数: 合計86名(医学部・保健医療学部学生4名)

会場での参加

毛呂山キャンパス 26名(医学部・保健医療学部学生1名ずつ)

日高キャンパス 3名

川越キャンパス 2名

ライブ配信視聴者

毛呂山キャンパス 37名

日高キャンパス 18名（保健医療学部学生3名）

2) 第21回学内グラント受賞者成果発表会

日時：令和3年3月26日（金曜日）17:00～18:50

場所：毛呂山キャンパス・本部棟第3講堂

川越キャンパス・管理棟2階カンファレンス3（テレビシステム中継）

日高キャンパス・教育研究棟2階会議室1（テレビシステム中継）

学内LANによるライブ配信

埼玉医科大学医学部 講義収録・配信システムを利用した録画視聴

発表者（敬称略；所属）・演題

17:05～ 石戸 博隆（医学部 総合医療センター 小児科）

「フォンタン患者で、運動時血行動態は遠隔期合併症と関連するか？」

17:25～ 川田 由美子（医学部 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科）

「質量分析イメージング法による口腔潜在的悪性疾患のリスク評価」

17:45～ 大間 陽子（医学部 教養教育）

「ポリアラニン病の分子機構の解明」

18:05～ 佐藤 翔（医学部 国際医療センター 産婦人科（婦人科腫瘍科））

「子宮体がんにおけるLINE1の機能解明とそれをターゲットにした治療薬の検討」

18:25～ 2019年度丸木記念特別賞 吉川 圭介（医学部 薬理学）

「多発性硬化症治療への生理活性脂質の応用」

総合司会：国際医療センター 海老原康博

座長：大学病院 山元敏正，総合医療センター 石戸博隆，医学部 小谷典弘，

国際医療センター 中平光彦，海老原康博

開会の辞：別所正美 学長 閉会の辞：片桐岳信 医学研究センター長

総参加数：合計63名（保健医療学部学生3名）

会場での参加

毛呂山キャンパス 31名（保健医療学部学生3名）

日高キャンパス 5名

川越キャンパス 6名

ライブ配信視聴者 21名

新型コロナウイルス感染拡大の対応により、会場での参加に加えて、ライブ配信を取り入れて学内グラント成果発表会に参加しやすい環境を取り入れた。

医学研究センター

研究支援管理部門

小谷 典弘
(部門長)

1. 構成員

部門長 小谷典弘 (KOTANI Norihiro) : 医学部 生化学 : 准教授
副部門長 堀内 大 (HORIUCHI Yutaka) : 医学部 微生物学 : 講師
部門員 大竹 明 (OHTAKE Akira) : 埼玉医科大学病院 小児科 : 教授
森 隆 (MORI Takashi) : 総合医療センター 研究部 : 教授
佐藤 毅 (SATO Tsuyoshi) : 埼玉医科大学病院 歯科・口腔外科 : 准教授
町田早苗 (MACHIDA Sanae) : 医学研究センター : 助教

2. 目的

研究マインド醸成, 学内グラントの活用, 学外研究費獲得の推進, 研究成果の管理, リサーチアドミニストレーションセンターとの連携による研究倫理推進等により, 学内研究者の研究活動を支援する。

3. 活動報告

1) 学内グラントと研究奨励費の助成

2020年度学内グラント募集では, 丸木記念特別賞5件, 一般枠31件, 計36件の応募があった。そのうち1名が辞退したため, 最終的に35件の応募となった。分野別の複数の選考委員による予備審査の後, グラント選考委員会が開催され, 丸木記念特別賞1件, 一般枠23件, 計24件の研究テーマが採択された。さらに, 学内グラント採択課題(一般枠)が翌年, 翌々年度に科研費採択(研究テーマが直接関連していることが条件)の場合に対象となる研究奨励費(20万円, 購買経由の使用, 経費報告書必要なし)が計11件助成された。

2) 科学研究費獲得状況の把握

2020年度の科研費採択結果は, 申請総数187件(申請率13.33%)に対して, 新規採択39件(採択率20.86%), 採択総額201,110千円であった。申請総数・率, 採択率, 採択総額いずれも去年よりやや低い結果となった。今後, 学内グラント等の活用により, 申請総数・率, 採択率, 採択総額のさらなる向上を目指して支援を継続する。

3) 論文投稿報告書の管理

倫理審査の対象となった研究内容についての論文投稿に際し, 義務付けられている論文投稿報告書の提出は, 2020年度は117件であり, 2019年度(91件)に比較して26件の増加であった。例年では時期ごとに報告件数の大きな変動が見られ, 過去2年間は年度末に向けて報告件数が増加する傾向が見られた。2020年度は, 時期ごとの大きな増減は見られず, いずれの時期においても報告件数は例年より多かった。なお, 倫理審査の対象となった研究とは, 大学倫理審査委員会, 保健医療学部倫理審査委員会, 3病院IRBで審査された案件に関わる全ての研究である。

4) 剽窃検知ソフト iThenticate の運用

論文作成では, 意図せず剽窃とならないように注意が必要である。近年の論文シデジタル化とインターネット普及を背景に, 平成25年施行の博士論文オープンアクセス化(公表義務)に伴って現在までに国内の半数近くの医学部を有する大学に導入されている剽窃検知ソフト iThenticate を, 研究マインド支援グラント(共通部門研究費)を用いて, 平成29年度から30年度にかけて試験的に運用を始め, 今年度も運用を継続している。2019年度から, 大学院学位審査の際の学位論文の提出にあたって, 本ソフトを使用した検知を実施することが義務化された。なお, 剽窃とは, 他の研究者のアイデア, 情報や成果等を当該研究者の了解もしくは適切な引用なく発表することであり, このような研究不正が発覚すると著者個人だけでなく組織全体に信用失墜等の重大な影響が及ぶ。

5) 悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）への対応

助成を受けた論文に無料アクセスできるようにするべきであるというプランS等の国際的な潮流に伴い、著者側が掲載料を支払い読者側は無料アクセスできるオープンアクセス誌が増加しているが、誤って悪徳雑誌（ハゲタカジャーナル）に投稿しないように注意が必要である（日本医学会から注意喚起の通達が発行され、日本学術会議において対応策が検討中である）。これに関して、2018年度より、論文投稿報告書にチェック項目を設け、英語論文投稿時は「投稿予定のジャーナルはPubMedに掲載されていますか?」「参照可能な優良出版社が運営するジャーナルですか?」等について確認するように注意喚起を行っている。

6) 新科研費アドバイザー制度

科研費採択率の向上を目指し、科研費の全種目を対象とした新しい科研費アドバイザー制度を今年度より開始した。リサーチアドミニストレーションセンターとの共同で実施し、科研費審査委員や大型競争的研究資金獲得経験のある研究者を中心に、43名のアドバイザーが利用者の研究計画調書を個別に添削した。利用件数は44件で、種目の内訳は若手研究21件、研究活動スタート支援2件、基盤研究（C）20件、挑戦的研究（萌芽）1件であった。また、このアドバイザー制度において、アドバイザーから得たコメントは匿名化し、その一部をまとめたコメント集を作成し、「科研費研究計画書調書のためのチェックリスト」と併せて学内ホームページに公開した。

さらに、片桐センター長を講師として、「科研費 研究計画調書の書き方に関するeラーニング」、および「科研費 研究計画調書の書き方に関する講習会」を企画・実施した。Eラーニングの受講完了者数は825名（2020年10月2日時点）、講習会参加者数は51名であった。講習会の内容は限定公開でYouTube配信を行い、その視聴回数は143回（2020年10月5日時点）であった。受講者アンケートでは、eラーニング・講習会は科研費アドバイザー制度の周知に役立ち、内容は判りやすく役に立ったとの回答を得た。

次年度以降も、より効果的で利用しやすいものを目指して「新科研費アドバイザー制度」をブラッシュアップし、本学の科研費採択率向上につなげたい。

医学研究センター

共同利用施設運営部門

坂本 安
(部門長)

1. 構成員

部門長：坂本 安 (SAKAMOTO Yasushi) : 中央研究施設機能部門：教授：任期：R4年3月31日
副部門長：佐藤 毅 (SATOH Takeshi) : 埼玉医科大学病院歯科・口腔外科：准教授：任期：R4年3月31日
副部門長：田丸 淳一 (TAMARU Jyunichi) : 総合医療センター病理部：教授：任期：R4年3月31日
部門員：一色 政志 (ISSHIKI Masashi) : 中央研究施設 RI 部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：仁科 正実 (NISHINA Masami) : 中央研究施設実験動物部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：椎橋実智男 (SHIIBASHI Michio) : 情報技術支援推進センター：教授：任期：R4年3月31日
部門員：西本 正純 (NISHIMOTO Masazumi) : 中央研究施設日高ランチ RI 部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：水野 洋介 (MIZUNO Yousuke) : 中央研究施設形態部門：准教授：任期：R4年3月31日
部門員：横尾 友隆 (YOKOO Tomotaka) : 中央研究施設日高ランチ実験動物部門：准教授：任期：R4年3月31日

2. 目的

本学研究者による最先端の高度な研究推進を支援するための学内共同利用の研究施設が、本学における臨床及び基礎医学研究の推進・発展の基盤となり機能するために必要な事項について検討し、必要に応じて部門会議を開催して討議する。

3. 活動報告

【共同利用実験室利用の啓蒙と整備】

共同利用実験室は、実験室を持たない教員に対して、最小限の機器を備えた実験場所を提供し、もって当該教員の研究活動のセットアップに資することを目的として平成24(2012)年9月10日より運用が開始された。現在、基礎医学棟3階に整備されており、12区画の実験スペースが用意されている。また、フェローステーションが併設されており、利用者はデータ整理と休息のために使用することができる。令和2(2020)年度は、生理学、皮膚科、総合心療内科、消化管内科、小児科、歯科口腔外科、ER、アドミッションセンター、医学研究センター、医学教育センター、毛呂 RI 部門、形態部門により有効利用された(総利用料：¥216,000)。また、日高キャンパスゲノム棟4階にも同様のスペースが整備され、運用されている。消化器腫瘍科(国際)、腎臓内科、リウマチ膠原病科、リサーチパークレジデントにより有効利用された(総利用料：¥258,000)。

【中央研究施設共同利用研究機器・設備整備】

①令和2(2020)年6月31日キーエンス BZ-X 用ソフトウェア BZ-H3C ハイブリッドセルカウント、BZ-H3CM マクロセルカウント、BZ-H3M 計測モジュールが、研究マインド支援グラントにより研究遂行支援のために導入され、利用が開始された。

②令和2(2020)年9月、COVID-19 感染拡大の対応策として毛呂山キャンパスの共同利用施設実験台上に仕切りを設置した。

【テクニカルセミナーの開催】

以下のテクニカルセミナーを開催し、機器の取り扱い及び新しい研究技術を紹介した。

①令和2(2020)年11月25日、18:00-19:00、ウェビナー、中央研究施設形態部門主催「医学系の研究費申請に活かすゲノム編集と細胞解析」、対象：学内研究者

②令和2(2020)年12月5日、18:00-19:00、ウェビナー、中央研究施設形態部門「エピゲノムで細胞変化のメカニズムを探る」、対象：学内研究者

【委員会等】

1) 共同利用施設運営部門／中央研究施設運営委員会会議

①第74回中央研究施設運営委員会；【議題】1) 中央研究施設の組織構成に関して、2) 中央研究施設規則改訂について、3) 人事に関して、4) 中央研究施設設置希望機器リストに関して、5) 令和2(2020)年度の中央研究施設の会計処理に関して；【議事】1) 2021年3月31日をもって中央研究施設の部門構成から日高ランチRI部門が削除される。2) 日高ランチRI部門の閉鎖に伴い、中央研究施設規則が現状と整合性の取れる形に変更され、変更点及び当該規則の運用について説明された。3) 次年度における教職員の退職、採用、異動等に関して報告された。3-1) 実験動物部門仁科正実部門長が3月31日に退職され、後任に水野由美氏が内定した。ただし当面は、坂本施設長が実験動物部門長を兼担する。3-2) 日高ランチRI部門の閉鎖に伴い、西本正純部門長は毛呂山キャンパスのRI部門長として異動する。現毛呂山キャンパスRI部門長の一色政志先生(教授昇格)は、臨床(内分沁糖尿病内科)に専念しつつ今後のRI部門の運営に関してご指導頂く。3-3) 日高ランチ長を坂本施設長に代わり、RAセンター管理下で運営されるリサーチパークと日高ランチの設備の重要性からRAセンターの千本松孝明副センター長にランチ長を兼担して頂く。3-4) 中央研究施設の2021年度からの運営体制が表により示された。4) 中央研究施設における設置希望機器リストを更新に関して説明された。また、学内支援 Grant 共通(医学部)に申請した物の中から、キーエンス社の蛍光顕微鏡解析ソフトウェアが購入され、日高ランチ機能部門のBZ-X710 蛍光顕微鏡システムに導入された。5) 2020年度(前年度)の中央研究施設経理処理報告があり、各部門ともに目立った予算オーバーが無い旨説明された。

【共同研究の啓蒙活動等】

東洋大学バイオ・ナノエレクトロニクスセンター(平成29年4月1日～令和2年3月31日)及び城西大学(平成28年4月1日～令和2年3月31日)と中央研究施設の間で共同研究契約書を取り交わしており、共同利用施設を有効利用した研究が継続されている。城西大学との共同研究では、成果が有り、2020年4月6日、専門誌Rapid Communications in Mass Spectrometryに掲載された(Characterization of 6-bromoferulic acid as a novel common-use matrix for MALDI-TOF-MS, DOI:10.1002/rcm.8636)また、東洋大学との新たな共同研究が：脳梗塞と関連 CNS 異常治療への応用を目指し、「マウス中大脳動脈閉塞モデルにおける Precision-Targeted Nano therapy の検討」としてスタートする予定である。日高ランチ機能部門管理下に、毛呂山キャンパスと同様の共同利用実験室、共同利用フェローステーションの運用が整い、円滑な運用が遂行されている。リサーチパークにおいて研究活動を行う会社、各キャンパスの研究者による共同研究の推進とその支援も更に促して行く予定である。

4. 評価と次年度目標

実験動物施設における感染対策に関しては、良好な結果が得られ続けていることから、これまでの成果を冊子としてまとめ、HPへの掲載を予定している。近年、外部助成金を得ての研究機器の整備が滞っているため共同利用施設運営部門と医学研究センター、事務部門とタイアップし、共同利用研究機器購入経費の獲得を模索し、連携体制を確立して行く。

医学研究センター

安全管理部門

三谷 幸之介
(部門長)

1. 部門構成

部門長 三谷幸之介：ゲノム応用医学：教授

感染分野

副部門長 松井政則：微生物学：准教授

部門員 森 隆：総合医療センター 研究部：教授
光武耕太郎：国際医療センター 感染症・感染制御科：教授
佐藤正夫：保健医療学部 臨床検査学科：教授
河村 亨：臨床検査医学（中央検査部）：係長
池田和博：ゲノム応用医学：准教授廃液等環境分野

副部門長 奥田晶彦：ゲノム基礎医学：教授

部門員 森 隆：総合医療センター 研究部：教授
安達淳一：国際医療センター 脳神経外科：准教授
野寺 誠：保健医療学部 臨床検査学科：准教授
淡路健雄：薬理学：准教授DNA 分野

部門長 三谷幸之介：ゲノム応用医学：教授

副部門長 千本松孝明：RA センター：教授

村上 孝：微生物学：教授
部門員 中野貴成：生化学：講師
森 隆：総合医療センター 研究部：教授
海老原康博：国際医療センター 臨床検査医学：教授
横尾友隆：中央研究施設日高ランチ 実験動物部門：准教授
脇田政嘉：保健医療学部 臨床工学科：講師
菅原哲雄：RA センター 知財担当：講師
荒木靖人：埼玉医科大学病院 リウマチ膠原病科：准教授
百瀬修二：総合医療センター 病理部：准教授動物分野

副部門長 森 隆：総合医療センター 研究部：教授

西川 亮：国際医療センター 脳神経外科：教授
小野川 傑：保健医療学部 臨床検査学科：教授
仁科正実：中央研究施設 実験動物部門：准教授
横尾友隆：中央研究施設 実験動物部門 日高ランチ：准教授

薬物分野

副部門長 淡路 健 雄：薬理学：准教授
 西 本 正 純：中央研究施設 日高ブランチ RI 部門：准教授
 齋 藤 健 一：総合医療センター 薬剤部：課長
 藤 原 智 徳：保健医療学部 臨床検査学科：教授
 村 松 俊 裕：国際医療センター 心臓内科：教授

RI 分野

副部門長 一 色 政 志：中央研究施設 RI 部門：准教授
 西 川 亮：国際医療センター 脳脊髄腫瘍科：教授
 熊 倉 嘉 貴：総合医療センター 画像診断科・核医学科：教授
 茅 野 秀 一：保健医療学部 臨床検査学科：教授
 西 本 正 純：中央研究施設 日高ブランチ RI 部門：准教授

2. 今年度の活動**感染分野**

令和2年度は、病原体等取扱申請書22件（新規申請3件，継続申請19件），病原体等移動（受入）申請書4件，指定実験室使用申請3件が提出された。これらの申請に関して，病原性微生物等管理委員会で審議，修正された後，すべて承認された。

廃液等環境分野

本学における実験廃液の処理及び廃液基準のチェックについては，3つのキャンパス（毛呂山・川越・日高）のそれぞれにおいて担当する事務職員が割り与えられている。当該分野は，それらの実務に当たっている事務職員と連携して，廃液等に関して問題が起こっていないか随時調査している。本分野での会議については，今までは，必要に応じて不定期に開催していたが，今年度から，それに加えて，議題の有無に関わらず，年4回，定期的に会議を行うことにした。このようにすることで，今まで以上に，委員間での情報の共有や連携を図ることができるであろうと考えている。

DNA 分野

今年度の遺伝子組換え生物等の使用等における審査申請状況は次の通りである。第二種拡散防止措置申請書（承認52件），内容変更（承認29件），譲渡届（承認4件）。また，組換え実験施設について登録・審査（3件），教育訓練受講証明書発行（38件）を実施した。

今年度より申請者の負担を軽減するため運用フローを一部見直した。また，次年度からは申請書の捺印を廃止することとした。また，審査基準のポイントを明確にすることで，委員会として審査基準のさらなる統一について継続して検討する。その他，SARS-COV-2の実験分類はクラス3である旨の連絡が文部科学省からあった。ただし，SARS-COV-2を核酸供与体とする実験であっても，宿主の哺乳動物等に対する病原性を著しく高める可能性がない場合は大臣承認申請の対象外であることを確認した。

動物分野

学内にて実施される全ての動物実験は，各キャンパスに設置されている動物実験小委員会そして埼玉医科大学の動物実験委員会により動物実験計画書の審査・承認が行われている。令和2年度，各キャンパスから提出された動物実験計画書239件〔注意を要する動物実験計画書：組換えDNA実験（P1A実験：79件，P2A実験：7件），感染実験（ABSL1実験：4件，ABSL2実験：8件，劇物使用実験：2件，RI使用実験：8件）〕，動物実験中間報告書・自己点検票213件，動物実験結果報告書・自己点検票26件，動物実験計画（変更・追加）承認申請書51件，動物実験（終了・中止）報告書26件，実験室設置承認申請書28件について審査を行い承認した。さらに，随時メール審査を開催し，円滑に動物実験計画書，動物実験計画（変更・追加）承認申請書，実験室設置承認申請書の審査を行い承認した。様式8動物実験の自己点検票と様式9飼養保管状況の点検票により，令和2年度の動物実験そして飼養保管状況の自己点検を行った。遺伝子組換え生物等を使用した動物実験は，組換えDNA実験安全委員会により第二種使用等拡散防止措置承認申請書の審査・承認が行われた。また，動物実験等に関する情報公開の一環として，以下の1-6の内容を外観閲覧可能なホームページ（<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal/index.html>）に行った。

1. 期間内規程・規則（埼玉医科大学動物実験規程，埼玉医科大学動物実験委員会規則）
2. 自己点検評価の結果
3. 外部検証の結果
4. 飼養及び保管の状況（動物種及び動物数施設の情報）
5. その他（動物実験計画書等の審査の状況と特に注意を要する動物実験の実施状況，教育訓練の実績，動物実験委員会，動物実験委員会審査手順書）
6. 動物実験計画書関連書式（様式1 動物実験計画書，様式2 動物実験計画（変更・追加）承認申請書，様式3 動物実験（終了・中止）報告書，様式4 動物実験（中間・結果）報告書，様式5 飼養保管施設設置承認申請書，様式6 実験室設置承認申請書，様式7 施設等（飼養保管施設・動物実験室）廃止届，様式8 動物実験の自己点検票，様式9 飼養保管状況の点検票）

薬物分野

研究用麻薬申請・向精神薬管理を薬物部門で一括して行っていたが，管轄保健所が異なること並びに，化学物質管理規約が異なることより各キャンパスで独立して管理を行うことないなっている。薬物分野としては研究用麻薬・向精神薬の学内調査を現在遂行中である。

また，化学物質管理の厳密化が求められており全化学物質の在庫管理・使用簿の記載など煩雑な事務手続きが必要になることが予想されている。加えて継続課題として，労働安全衛生法改正により必要となる化学物質についてのリスクアセスメントの問題もあり，管理方法のルールづくりを慎重に検討を継続している。

RI 分野

毛呂山キャンパスの第三研究棟 RI 研究施設の新規利用希望者 2 名に対し，それぞれ 2020 年 4 月と 5 月に，新規教育訓練を実施した。既登録者のための再教育訓練については，2021 年 3 月に実施した。昨年度に引き続き，新型コロナウイルス感染予防の観点から，多人数が集合する講習の形式は取らず，再教育訓練資料を配布し，理解度確認テストの解答を確認することをもって再教育訓練とした。再教育訓練受講者は 21 名であった。また，放射線業務従事者への問診を 2020 年 6-7 月と 2021 年 1 月に実施した。受診人数は，それぞれ 24 名と 23 名であった。

医学研究センター

フェロースhip部門

片桐 岳信
(部門長)

1. 部門概観

<部門員構成>

部門長	片桐岳信 (KATAGIRI Takenobu)	: ゲノム基礎医学: 教授 (任期: R3.3.31)
副部門長	高田 綾 (TAKADA Aya)	: 法医学: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	森 茂久 (MORI Shigehisa)	: 医学教育学: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	名越澄子 (NAGOSHI Sumiko)	: 総合医療センター消化器・肝臓内科: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	石原 理 (ISHIHARA Osamu)	: 産婦人科学: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	淡路健雄 (AWAJI Takeo)	: 薬理学: 准教授 (任期: R3.3.31)
部門員	村松俊裕 (MURAMATSU Toshihiro)	: 国際医療センター心臓内科: 教授 (任期: R3.3.31)
部門員	小林直樹 (KOBAYASHI Naoki)	: 保健医療学部・臨床工学科: 教授 (任期: R3.3.31)

<活動目的>

埼玉医科大学大学院医学研究科委員会及び埼玉医科大学医学教育センターとの連携のもとに、常勤教員以外の研究者（非常勤研究者）の経済的・身分的支援を目的とする。

<業務>

1. 奨学金候補者の選考
2. 非常勤研究員の審査・登録
3. 非常勤研究員の身分証明
4. 専攻生授業料免除の審査
5. 各種非常勤研究員の身分的位置づけおよびその他の支援体制の確立
6. 上記と関連して規定集（専攻生，協力研究員，特別協力研究員，特任研究員）の確認
7. 研究支援制度に関する議論と提案

2. 令和2年度の活動

- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の制度は、一旦の休止を経て、学長および医学研究センター長の了承のもと、平成25年4月より暫定的に再開されている。令和2年度も、「2021年度埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」の公募を行い、外国人留学生4名を候補者として選考した。この4名の中で、2名は「条件付き承認」、2名は「条件付き再審査」とした。
- ・本奨学金を有効に利用するために、募集要項の掲示時期を早め（6月に学内掲示）申請者の十分な準備期間を確保するとともに、継続給付者を優先的に選考することとした。
- ・本奨学金の募集要項に、外国人留学生の在留資格と、日本人大学院生の収入に関する条件を明記し、毎年、選考時に問題となる応募資格を明確にした。

3. 現状と今後の課題の総括

<本奨学金の有効利用について>

- ・「埼玉医科大学私費外国人留学生等奨学金」が有効に利用されるよう、学内に広く周知すると共に、今後の改善策について継続的な議論を行う。

<定例会議とメール会議>

- ・それぞれの課題について迅速に結論を出すため、基本的に毎月1回程度のメール会議を行う。

医学研究センター

研究評価部門

椎橋 実智男
(部門長)

研究評価部門の現在の主な活動は、本学独自の研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）の運用による、本学の研究業績のデータベース化、および国立研究開発法人科学技術振興機構（JST: Japan Science and Technology Agency）が運用する「データベース型研究者総覧 researchmap」と連携した研究業績の公開、教員の研究と診療の専門性に関するデータベースの運用である。また、平成28年度からは研究活動実績登録の運用を開始し、人事考課で教育と同じく「研究のポイント制」を実施している。これらを通して、本学の研究活動の発展に寄与すべく活動を続けている。以下に、令和2年度の活動状況を報告する。

1 研究業績データベースシステム（「研究業績プロ」）について

1) 概要

「研究業績プロ」は、本学独自の研究業績データベースシステムで、本学の全研究者を対象に研究に関わる情報を蓄積し、学内に公開するシステムである。

<https://mrc-gdd.saitama-med.ac.jp/smsap/P300>

（医学研究センターのホームページからもリンクあり）

令和3年3月現在、医学部と保健医療学部をあわせて1,393名の研究者が登録されている。利用（アクセス）の状況を図1に示す。

2) 運用の状況（令和2年4月から令和3年3月まで）

- 4月 保健医療学部の教員に対する利用説明会の実施
- 5月 中央研究施設を利用した研究成果のデータの提出
- 6月 国際医療センターへの研究業績の提出
- 7月 人事考課のための研究活動実績登録データダウンロード
- 8月 大学病院への研究業績の提出（特定機能病院）
- 11月 researchmap とのデータ交換の実施（以後、基本的に毎月実施）

3) researchmap とのデータ交換

researchmap のシステムのバージョンアップに伴い、研究業績データベースシステムを停止することなくデータ交換が可能となったため、11月より基本的に毎月初旬にデータ交換を実施することとした。

4) 研究力の分析

- ・埼玉医科大学 研究マインド支援 Grant（共通部門）を受け、エルゼビア社による研究力の定量化による現状把握と他大学との比較分析を実施した。

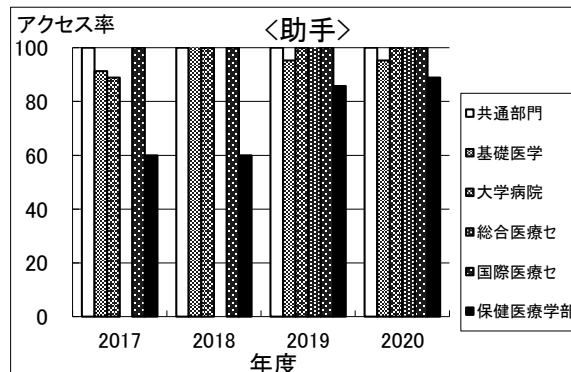
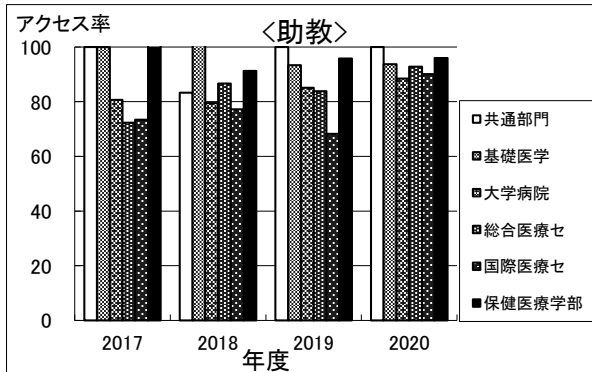
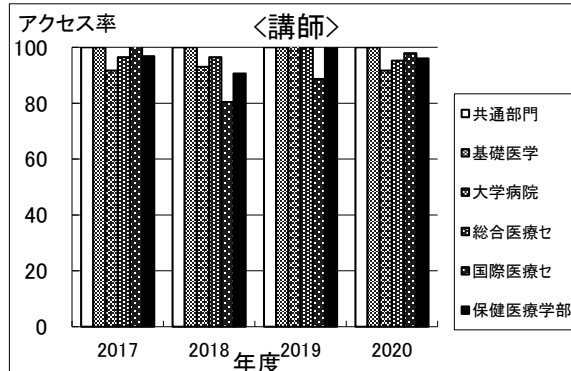
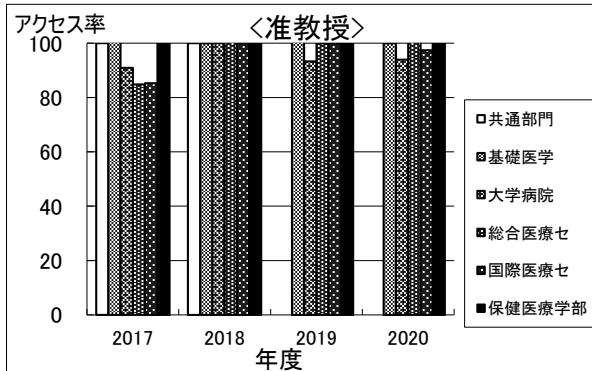
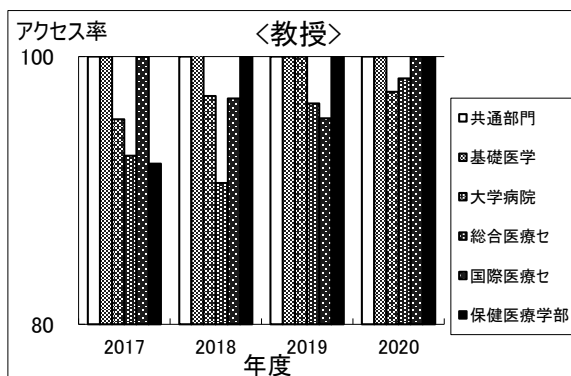
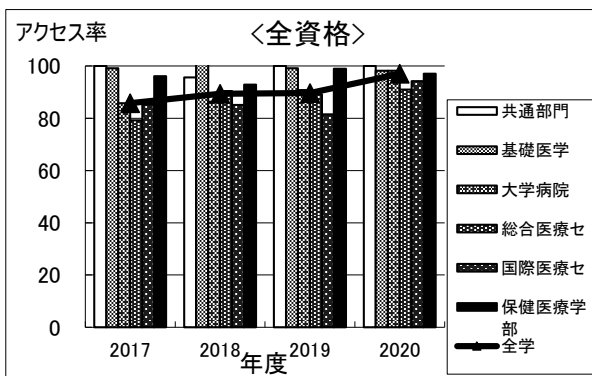
研究業績データベースアクセス数(2020/4 ~ 2021/3)

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	7	0	2	8	5	22
基礎医学	21	23	29	15	20	108
大学病院	74	31	44	246	8	403
総合医療センター	60	37	60	298	2	457
国際医療センター	67	37	46	154	2	306
保健医療学部	27	14	24	24	8	97
合計	256	142	205	745	45	1393

研究業績データベースアクセス率

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
共通	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	100.0
基礎医学	100.0	100.0	100.0	93.8	95.2	98.2
大学病院	97.4	93.9	91.7	88.5	100.0	91.0
総合医療センター	98.4	105.7	95.2	92.8	200	95.0
国際医療センター	100.0	97.4	97.9	90.1	100.0	94.2
保健医療学部	100.0	100.0	96.0	96.0	88.9	97.0
合計	98.8	99.3	95.8	91.0	97.8	94.1

2020-3-31現在



* 100%を超えているのは、退職後、非常勤になってからもログインした方がいるため

図 1.